

---

# 始まりは幼なじみ

よう

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

始まりは幼なじみ

### 【Zコード】

Z5428E

### 【作者名】

よつ

### 【あらすじ】

始まりは幼なじみだった。でも恋人変わった。凛は美少女。でも  
ちょっとHな女の子。純は美少年。凛に告白し見事恋人になつた。  
でもあんな目にあっちゃつて！？？？

# 第1わあ 告白&ampo;初H???????

始まりは幼なじみ。

幼なじみから恋人へ変わった瞬間。

あたし達は屋上にいた。

あたしは石川凜。

今幼なじみの渡部純に屋上に来てと呼び出しがされた。

『純！どうしたの～？こ～じゃダメ？』

『だ～め！だから屋上行こう？嫌なの？』

うつ～昔からあたしはこの顔に弱い！昔から弱いが最近ますますか  
っこよくなつてさらに弱くなつてきた！

『うー！わかつたよー！だからそんな顔しないで？』

『ごめん！ごめん！でも凜もそんな顔しないで？』

凜は最近すゞく可愛くなつた！クラスの男子がほとんど凜に惚れて  
いるらし～…

『わかつたあ～ぢやあ早く行こうよ～。』

『おう！』

『ふ～！やつと上りきつた！結構疲れるね！』

『そつか～？俺は全然！サッカーはつらいからなー！』

『そつか～！サッカー部はつらいもんねー』

『うん』

『でつ？話つてなあに？』

『うん』

：　：　：

『どうしたの？なんでなんも言わないの？』  
『ごめん。』

『大丈夫だよ？あたし純が言えるまで待つー一緒にサボっちゃおつか！？』

『うん』

『あははーあたしサボンの初めてーなんかドキドキするーー。』

『俺もドキドキする。』

『やつぱー？ドキドキするよねー』

『あのや、』

『ん～？言ふよつになつた？..』

『おう。』

『凜おねーさまが聞いてあげるー。』

『おねいさまって同じ年だろー。』

『そうだっけー？（笑）』

『そうだよ。』

『まいーやーでつ？何？もしかして好きな人でもできた？』

『うん。』

『えつマジで？純からそんなこと言うなんて初めてぢゃんーー誰？誰？教えてよ！だから屋上に呼んだんでしょ？相談したくてー。』

『うん。教える。教えるけど相談じゃない。』

『へ？ぢゃあ何？』

『……告白。……』

『へ？ちゅつえつ？意味わかんない！誰？..』

『凜に。』

『あたし？あたしに何告白するの？悩みもあるの？..』

『あーもうなんでわかんないかなー！（怒）』

『えつ？なんで怒つてんの？..』

『凜。告白つて何？』

『それはそりゃー好きな人に好きつて言つことじでしょ？』

『そうだよ。ぢゃあおバカな凜の為にもつかい言つよ？..』

『わかんないけどおバカぢゃないもん！』

『凜に告白する。』

- 1 -

凜？意味わかつた？』

『わかつた。……純があたしの口と好やうに口でしねへ。』

『……ナリタム』

『純顔真っ赤だよ？』

『……あたまえだろ！生まれて初めての面白だぞ……』

四  
六

返事……聞かせて?

あたしも

え？ 聞こえない。

『あたしも好き／＼』

一  
四  
三  
二  
一

#

五  
一  
九  
九

ニシム 僕も

ハ力純なつでもこと早く

恥ずかしき

『男でしょ？』

「めん……ねえキスしていい?』

ノイロジカル・アーティストの「アート」

『五口にして悪かたな／＼』

二二〇

レシピ

卷之三

『本当にいいの?』

『……何度も聞かなくてよ／＼』

二九八

ナニカノ。」

卷二

遺二

『えつ？』

ちゅうう。

『んつ？んんー？？』

クチュクチュ。

ふはあ。

『純男のくせに可愛い声。』

『つるさい／＼／＼』

『気持ちよかつたの？』

『うん』

『可愛い』

『戾うづぜ？』

『うん！』

『後でメールするからな』

『わかった。また後でね！』

『おう。』

こうしてあたし達は恋人同士になつた。 - - - 放課後 - - -

『純！遅くなつてごめんね！』

『／＼／＼／大丈夫。』

『顔真っ赤だよ？』

『／＼／＼／＼／＼つるさい』

『もしかしてもしかすると……思い出しちやがつたりしちやつてる？』

『／＼／＼／＼…』

『純可愛いい～！』

『俺こ～ゆのつて初めてだから…／＼／＼』

『付き合つのが？』

『／＼／＼つと』

『アハ！純可愛いい～ぢやあ童貞？』

『／＼／＼…聞くなよ！』

『アハハハハ！』

『一個聞いていい？』

『ん？ 何？』

『今まで何人と付き合ってきた？』

『えー普通。』

『普通つて何人？』

『エーーート……13人？ 純あわせて14人目。』

『それ普通ぢやないし。』

『そーお？』

『何歳だよ。』

『アハハハハ！』

『俺カツコ悪いな……』

『何で？』

『／＼／＼／こんな事でヤキモチ妬いちゃつてや。』

『……ちやあかつこつけさせてあげようか？』

『……おう。』

『純素直で可愛い〜！』

『うるさい』

『キスして』

『／＼はつ？ なんで？ やだよ。恥ずかし』

『かつこつけさせてあげるつて言つたぢやん』

『やだよ。ここ校門だし。』

『ちやあ来て？』

『ちょっとどこ行くの？』

『ラブホ』

『えー……』

：：

『ほらここなら大丈夫でしょう？』

……うん

『キスして?』

ちゅ

『こないだも言つたでしょちゃんと舌入れて。』

うん』

ちゅ くちゅ ちゅく

『はつ

ふあ ふつ

『純可愛い声』

『……つるさい』

『続きたる? 純が決めて。』

『……怖い』

『大丈夫。怖くないよ』

『……する』

ちゅく

『あつ!』

『もう硬くなつてる』

んん!』

『舐めて欲しい?』

／＼＼＼舐めて

『やだ』

『やつなんで』

『放置プレイ(笑)!』

『ちょっと何やつてんの?』

『縛つてんの』

『ひあ!』

『よし! これでオッケー。』

『これ何? 痛いよ』

『これはね~コックリングって言つていけないようにしてんの』

『やだよ。イキタイ。』

『あつ忘れてた。飲んで。』

『何?』

『いいから』

ゴクゴク

飲んだ。』

『純はいいこだね』

『暑い。はあはあ』

『あーあ。あんなに飲むから。』

ズブツ

『痛! 痛いよ。何? 抜いて』

『これはねバイブって言つんだ!』

『……あつ……ああ!』

『だんだん気持ちよくなつてきたでしょ?』

『ああ! んう!』

『ぢやあ、あたしはシャワー浴びてくるね!』

『やつあ! 凜! ああ!』

『ああ。やつもイキタイあああ! んん~』

『あつもダメ~~~~~~んんんん~~~~~~』

『はつはつはあ!』

『純可愛いい~! もう空イキしちゃつたの?』

第2わあ  
H

『全然！……』

『ぢぢああむうやーらない！…』

『えつ！…』

『やつて欲しいの？？』

『／＼／＼／＼／＼／＼』

『ぢやんと言わなきやわかんない』

『／＼／＼また…して？？？？』

『純はいいこだね！…またしたげる……』

『／＼／＼もやだ。凛嫌い。』

『…本当グスツに…嫌い？？グスツ』

『あつごめん！…嘘！…嘘に決まつてんだろ？？』

『だつて…グスツ嫌いつて言つた…。グスツ』

『よ！…だから泣かないで？？ね？？』

『…わかつた。も泣かない』

やつべー凜の泣き顔見たら起つてきた。

『ねえ俺んち行かない？？』

『純家？…いけど隣ぢゃん！…』

『いいから…いいから…』

『うん…行こ～（ニヤ）』

この後の純は皆様の「想像にお任せします！…！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5428e/>

---

始まりは幼なじみ

2010年10月21日21時06分発行